

平成28年度 第11回曾於市子どもフェスタ ～広げよう 友だちの輪 SOO SOO 子どもフェスタ☆～



少年の主張発表者

広げよう 友だちの輪 SOO SOO 子どもフェスタ☆



テーマ考案者の
岩南小 森 大和さん



司会進行を務めたリーダー研修生

曾於市の子どものための祭典「第11回曾於市子どもフェスタ」が10月15日（青少年育成の日）、末吉総合センターと末吉総合体育館で開催されました。

今年のテーマは「広げよう 友だちの輪 SOO SOO 子どもフェスタ☆」

子どもフェスタは、子どもたちの健全育成の根底にある「人と人のふれあい」を通して「人を思いやる心」「互いに協力し合う心」を育て、人間関係の強い絆の結びつきをめざして開催されています。

当日は、午前中に末吉総合センターで少年の主張大会、末吉子ども太鼓の演奏、各青少年事業の体験発表が行われました。

午後からは、末吉総合センターに会場を移して、合計16の体験ブースで「わくわく体験コーナー」が開かれました。参加した約600人の子どものたちは、それぞれ楽しい時間を過ごしていました。

子どもたちの笑顔は、曾於市の大切な宝物です。そんな笑顔が輝く素敵な一日となりました。

午前の部



末吉子ども太鼓の演奏



発表者の皆さん（小学生7人・中学生3人）



青少年海外派遣事業シアトル研修生の発表



チャレンジ・ザ・日本一「富士登山」研修生の発表

午後の部（わくわく体験コーナー）



100円カレー大好評！



少年の主張大会

少年の主張大会には、市内の各小中学校の代表10名が出場し、学校や家庭、地域での活動や将来の夢などについて堂々と発表しました。

少年の主張大会 各受賞者一覧

小学生の部

最優秀賞

「次へのステップ」

有馬 鈴花（高岡小6年）

優秀賞

「食と農を学びたい」

中村 琴美（財部南小5年）

優良賞

「光神小学校の児童として」

山田 勇希（光神小6年）

「障害者と共に生きる」

津曲 麻那（末吉小6年）

「私が輝く場所」

佐伯 優衣（月野小6年）

「ぼくの夢」

小園 琢馬（中谷小5年）

「夢実現に向けて」

福山 彩美（財部小6年）

中学生の部

最優秀賞

「守り続ける」

東迫 風花（末吉中3年）

優秀賞

「私の母は受験生」

上野 すみれ（大隅中1年）

「当たり前のこと」

山之口 大輝（財部中3年）

小学生の部【最優秀賞】

次へのステップ

高岡小学校 六年 有馬鈴花



「大きな学校では、もっとたくさんの意見が聞けるのだろうな。」

高岡小の全校児童は十二名です。

私は、六年間ずっと学年一人で過ごしてきました。今年は五年生二人と複式で学習しています。

学習は先生と一対一に近く、分からないところは、すぐに聞くことができます。

一人なので、教科の単元も自分のペースで進めることもできます。

しかし、友達との意見交かんができません。

国語の学習で報告文を書いたとき

には、五年生や先生と読み合えますが、同じ学年の友達の作品が読めません。

討論会の時には、私と先生で意見を出し合い、五年生が聞き役をしてくれましたが、結論もすぐに出てしまいました。

「こんな時、同級生がいたらなあ。」とよく思います。

そこで、大きな学校での生活はどうだろうかと考えてみました。

授業中は、学習内容を理解できないままにして進んでしまうかもしれない。もし、いじめが起きて、周りの人が気付かないかもしれない。ちよつと不安になります。

しかし、友達と一緒に勉強して理解できるようになったり、困っている時には相談にのってくれるかもしれない。

何よりたくさんさんの意見や考えが聞けて、友達から学べるのではないだろうかなど、プラスの面、マイナスの面を色々想像しました。

六月末、私は末吉小へ合同学習に行きました。

ザワザワ、キヤーキヤー、私はそのざわめきに押しつぶされそうになりました。一クラスに高岡小の全校児童の三倍以上の人たちがいて、休み時間には、将棋をする人、冗談を言い合っている人、本を読んでいる人と様々で、私はその中で話しかけてくれる人と話していました。

そのパワーに圧倒さながら参加した国語の授業では、三人グループを作り、さんずいのつく漢字を協力して、できるだけ出し合う学習をしました。みんな積極的に前に出て黒板に書いていきます。

あるグループは、私の見たことも、読むこともできない漢字も書いていました。「すごい。知らない漢字を友だちから教えてもらえるなんて。」同級生と一緒に学び合えることに感動しました。

それから二か月。私は五年生の友達と一緒に、曾於市主催の英会話教室に参加しました。

すると、ある女の子から声をかけられました。

「六年二組に来てくれた子だね。」

その子にはにっこりして言いました。私のことをしつかり覚えていてくれたのです。それから、その友達は私が帰ったあとのさみしそうにしていた友達の様子を聞かせてくれました。私は心がほつこりと温かくなりました。

来年、私は中学校に進学します。ほかの小中学校からやってくる友達との出会いが、今からとても楽しみです。

小規模校の高岡小で学んだことと、合同学習で学んだことをプラスにして、次の中学校へ！
ステップをつなげていきます。

中学生の部【最優秀賞】 守り続ける

末吉中学校 三年 東迫風花



友達とは、これから先たくさんの困難に出会うであろう私たちにとって、救いとなってくれる存在です。中学校に入学して三年が過ぎました。小学生のころに比べ、人間関係が多様化し、人とのつながりも深くなってきたように感じます。

この人とのつながりの中には、家族のように必然的にできたものもあれば、友達のように偶然できたものもあります。この友達とのつながりは、どちらかが拒めば簡単に切ることができません。ですが、それはとても悲しいことだと思いませんか。もしみなさんが、今あるつながりの中で、一生大切にしていきたいと思うものがあるのなら、私はそれを守り続ける努力を決して怠ってはならないと思うのです。

私はかつて、友達に縁を切られたことがあります。原因は、私が不用意に発した言葉です。幼稚だった私が放った一言は、その人を深く傷つけました。私は、傷つけたということは理解しました。醜いことをしたのだと。だから、私はすぐに謝

りました。しかし、その人は不思議そうな顔をして私にこう言ったのです。

「あなたみたいな人は、知らない。」

「ああ、そうか」と思いました。これが縁を切られるということなんだと。涙が溢れて止まりませんでした。結局、私はそれから転校するまでの二年間、その人と一度も言葉を交わしませんでした。今思うと、私はその人のありがたさに気づいていなかったのだと思います。感謝を伝えることなく縁が切れてしまったのが、一番の後悔です。

友だちの縁というものは、思っているよりもずっとずっともろくて、思いもよらないことで壊れてしまいます。そして、一度壊れたつながりをつなぎ直すのは非常に困難です。だから、自分で築いたつながりは、自分で守っていかなくてはならないのです。友達の存在は決して当たり前のものではありません。あの時の後悔を、私は今でも鮮明に覚えていますし、これから先も一生忘れることはないと思います。最初に言ったように、友達は私たちにとって心の救いとなってくれる存在です。日々の中でも感じませんか。自分の隣でいつも笑ってくれる友のいるありがたさ。喜びと、涙を分かち合うことができる、かけがえのない友の存在を。そして、想像してください。もし、その友達に、そばにいないことを拒絶されたら。

私の母は、私にこう言いました。友達との間で、一番大切なのは信頼関係だと。損得の付き合いではないのだと。

信頼関係の大切さは、今も昔も変わりません。かの有名な戦国大名、伊達政宗という武将には、片倉景綱という従者がいました。景綱は、病気で片眼が飛び出し、人の目を恐れるようになった政宗を見かねて、その眼を切り落とすことを提案しました。彼の提案に乗り、眼を景綱に切り落とさせた政宗は、その後、奥州を統一し、独眼竜という異名を手に入れました。考えてみてください。友達に、眼を切り落として欲しいと言われてできますか。自分の体の一部を友達に委ねることができずか。それが可能なほどの絶対的な信頼関係が、二人にはあったのだと思います。

自分が、信頼を築いていきたいと思える人がいるのは、素敵なことです。その信頼を築くために、つながりを守り続けるために必要なのは、日々のちよつとした感謝の気持ちだと、私は思います。あの人がいて良かったと、そんなふうに思えるような友達が、みなさんに一人でもいるのなら、その人とのつながりを、どうか一生を懸けて、大切に守り続けてください。

明日も、あの人のそばで笑い続けることができるように……。

曾於市子どもフェスタ開催について 市子ども会育成連絡協議会

会長 岩水 豊



11回を開催できた子どもフェスタは、多くの方々の協力で開催できたことに感謝いたします。「少年の主張大会」では、10名の児童生徒が将来の夢・家族への感謝の言葉・故郷への思いなど素晴らしい発表をしてくださいました。

多くの人の前で、自分の意見を語ることは、非常に有意義なことだと思います。学力向上にもつながるのではと感じました。また、話を聞く側の子どもたちにも大きな影響を与えてくれたと、確信しました。

昼食は、女性部の皆さんによる100円カレーの提供でおいしくいたることができました。

午後の「わくわく体験コーナー」では、青少年指導員、市子連の理事、青年団、曾於高校、南九州大学、そお文化村など多くの方々との協力で、盛り上がりしました。子どもたちの目線で接するスタッフの対応に関心しました。多くの皆さんのご協力ありがとうございました。今後子どもたちの成長を、家庭、学校、地域の方々、行政などすべての市民の協力で支えていきたいです。